

主婦の生活スタイルに関する マーケティングデータ

～子供による主婦の個人行動制約解消後の生活スタイル 篇～

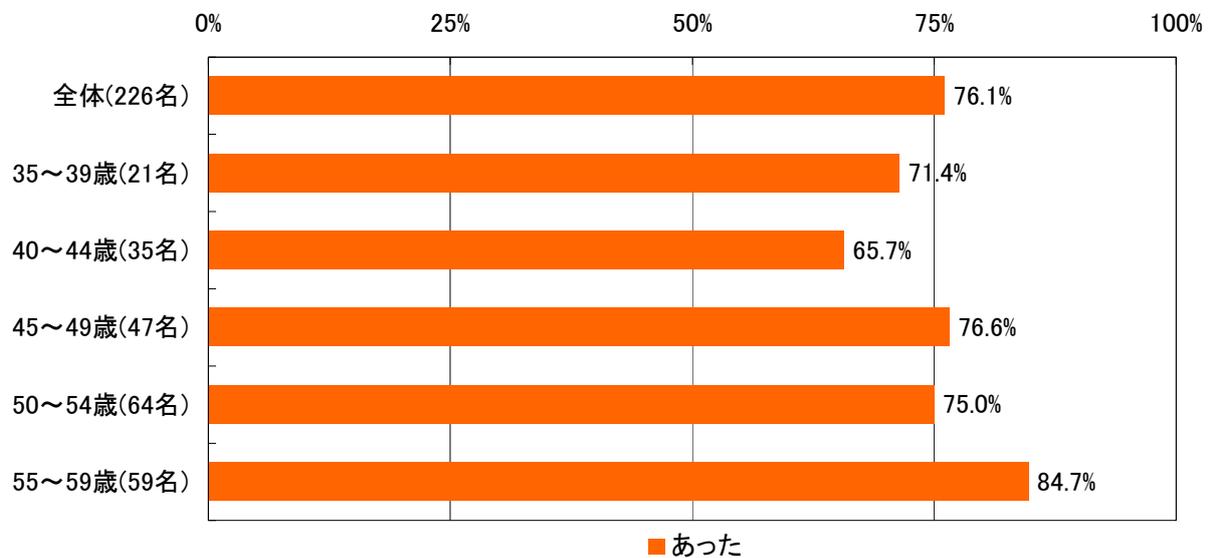
朝日大学マーケティング研究所

■調査方法	WEBアンケート	
■調査期間	2011年5月12日(木)～5月15日(日)	
■調査対象	首都圏在住の35歳～59歳で、かつ、同居する子供がいる層	
■有効回答	422名	
	35歳～39歳	86名
	40歳～44歳	85名
	45歳～49歳	88名
	50歳～54歳	83名
	55歳～59歳	80名
	合計	422名

- 現在はなくても、過去に子供による個人行動の制限を受けたとする主婦は7割以上(76.1%)。
- 高年代層ほど高比率という結果は、低年代(35歳～44歳)で制約を受けた経験がない主婦でも、将来的に制約を受ける時期を迎える可能性があることを示す。
- 個人行動の制約が解消された末子年齢をみると、そのことがよくわかる。
- 50歳～59歳では、中高生～学生の合計で6～7割と多数を占める。一方、35歳～44歳では小学生までで大半を占める。今は制約がひと段落したのであり、完全解消したのではないと考えるのが自然。

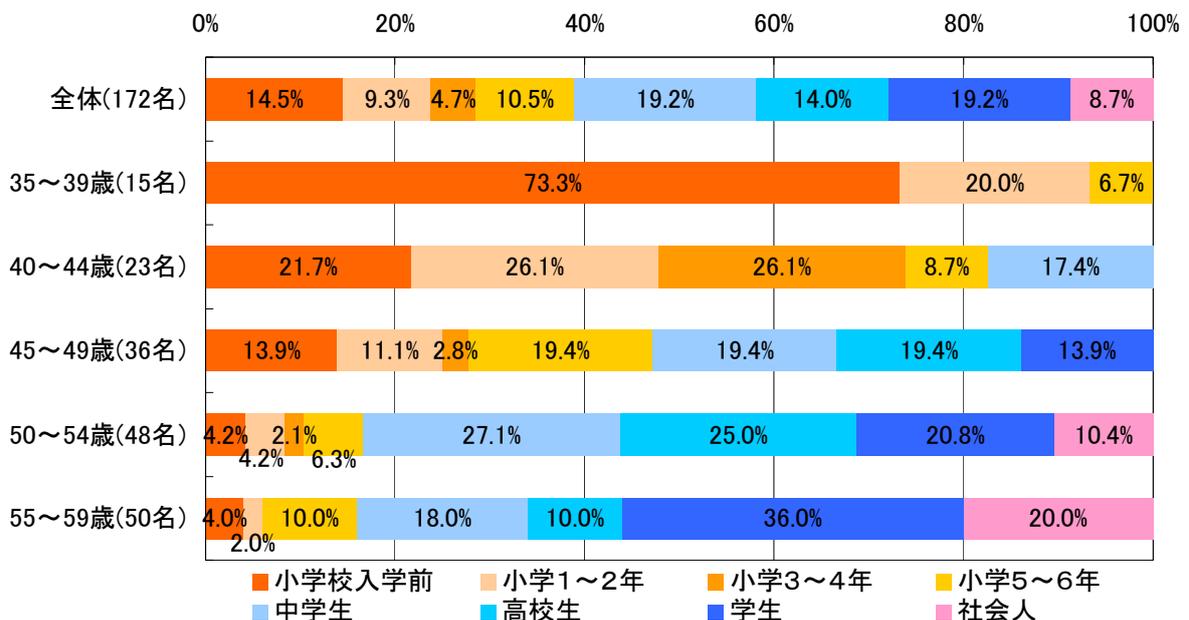
■子供によって個人行動が制約された経験の有無

n=現在は制約を受けていない層



■子供による個人行動の制約が解消された時期(末子年齢)

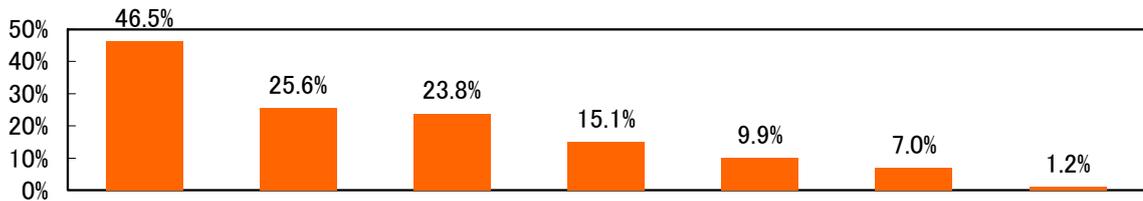
n=上記で「あった」と回答した層



2. 個人行動制約の解消後における生活スタイルの変化

- ▶ 子供による個人行動の制約解消後に、もっとも多く表れる変化は「外出機会の増加」である。
- ▶ 35歳～44歳では「友人と」、50歳～59歳では「夫婦と」、の比率が高いことが、その特徴。
- ▶ 仕事ならパートタイムを始める主婦が多い。フルタイムを選ばないのは雇用情勢もあるが、主婦自身の意識で、就業意欲よりも金銭意欲に重点が置かれているためと推察できる。
- ▶ 変化のきっかけでは、外出、習い事のいずれでも「自分自身の時間を楽しむ」がトップ項目。金銭に不安がない主婦なら、子育て終了後は、自らの楽しみを最優先(=自分本位)するのが主流となる。

■子供による個人行動制約の解消後における生活スタイルの変化



	友人と外出する機会が増えた	夫婦で外出する機会が増えた	パートタイムの仕事をはじめた	趣味の習い事をはじめた	スポーツ系の習い事をはじめた	文化系、芸術系の習い事をはじめた	フルタイムの仕事をはじめた
全体(172名)	46.5%	25.6%	23.8%	15.1%	9.9%	7.0%	1.2%
35～39歳(15名)	53.3%	0.0%	40.0%	6.7%	6.7%	6.7%	6.7%
40～44歳(23名)	52.2%	17.4%	21.7%	21.7%	13.0%	0.0%	0.0%
45～49歳(36名)	44.4%	19.4%	25.0%	11.1%	13.9%	5.6%	0.0%
50～54歳(48名)	41.7%	35.4%	16.7%	10.4%	10.4%	6.3%	2.1%
55～59歳(50名)	48.0%	32.0%	26.0%	22.0%	6.0%	12.0%	0.0%

■子供による個人行動制約の解消後における生活スタイル「変化のきっかけ」

□友人との外出機会が増えた層(80名)

自分自身の時間を楽しみたいと思って	78.8%
ストレス解消したいと思って	46.3%
空いた時間を有効に使いたいと思って	42.5%
自分自身の好奇心や関心を満たしたいと思って	33.8%
配偶者や友人との絆を深めたいと思って	28.8%

□夫婦での外出機会が増えた層(44名)

自分自身の時間を楽しみたいと思って	79.5%
配偶者や友人との絆を深めたいと思って	54.5%
自分自身の好奇心や関心を満たしたいと思って	43.2%
ストレス解消したいと思って	40.9%
空いた時間を有効に使いたいと思って	34.1%

□仕事を始めた層(43名)

家計の足しにしたいと思って	62.8%
空いた時間を有効に使いたいと思って	55.8%
小遣いを増やしたいと思って	44.2%
自分自身の時間を楽しみたいと思って	27.9%
外界との接点を保ちたいと思って	25.6%

□習い事をはじめた層(48名)

自分自身の時間を楽しみたいと思って	81.3%
ストレス解消したいと思って	50.0%
空いた時間を有効に使いたいと思って	50.0%
自分自身の好奇心や関心を満たしたいと思って	43.8%
健康増進したいと思って	39.6%

- 外出や習い事が増えた主婦では、自分自身の時間を楽しむ目的の満足が非常に高い(7割以上)。
- 一方で、空いた時間を有効に使う目的の満足はそれほど高くない(3割程度)。楽しさは実感しているが、時間の有効活用という観点ではまだまだ改善が必要、と考える主婦は少なくない。
- 仕事を始めた主婦の満足は、どの目的でも低調。思うようには収入を得られない現実を表している。

■「変化のきっかけ」に対する満足状況

□友人との外出機会が増えた層(80名)

自分自身の時間を楽しみたいと思って	満足	71.3%
	不満	5.0%
ストレス解消したいと思って	満足	38.8%
	不満	7.5%
空いた時間を有効に使いたいと思って	満足	32.5%
	不満	10.0%

□夫婦での外出機会が増えた層(44名)

自分自身の時間を楽しみたいと思って	満足	75.0%
	不満	4.5%
配偶者や友人との絆を深めたいと思って	満足	47.7%
	不満	2.3%
自分自身の好奇心や関心を満たしたいと思って	満足	40.9%
	不満	0.0%

□仕事を始めた層(43名)

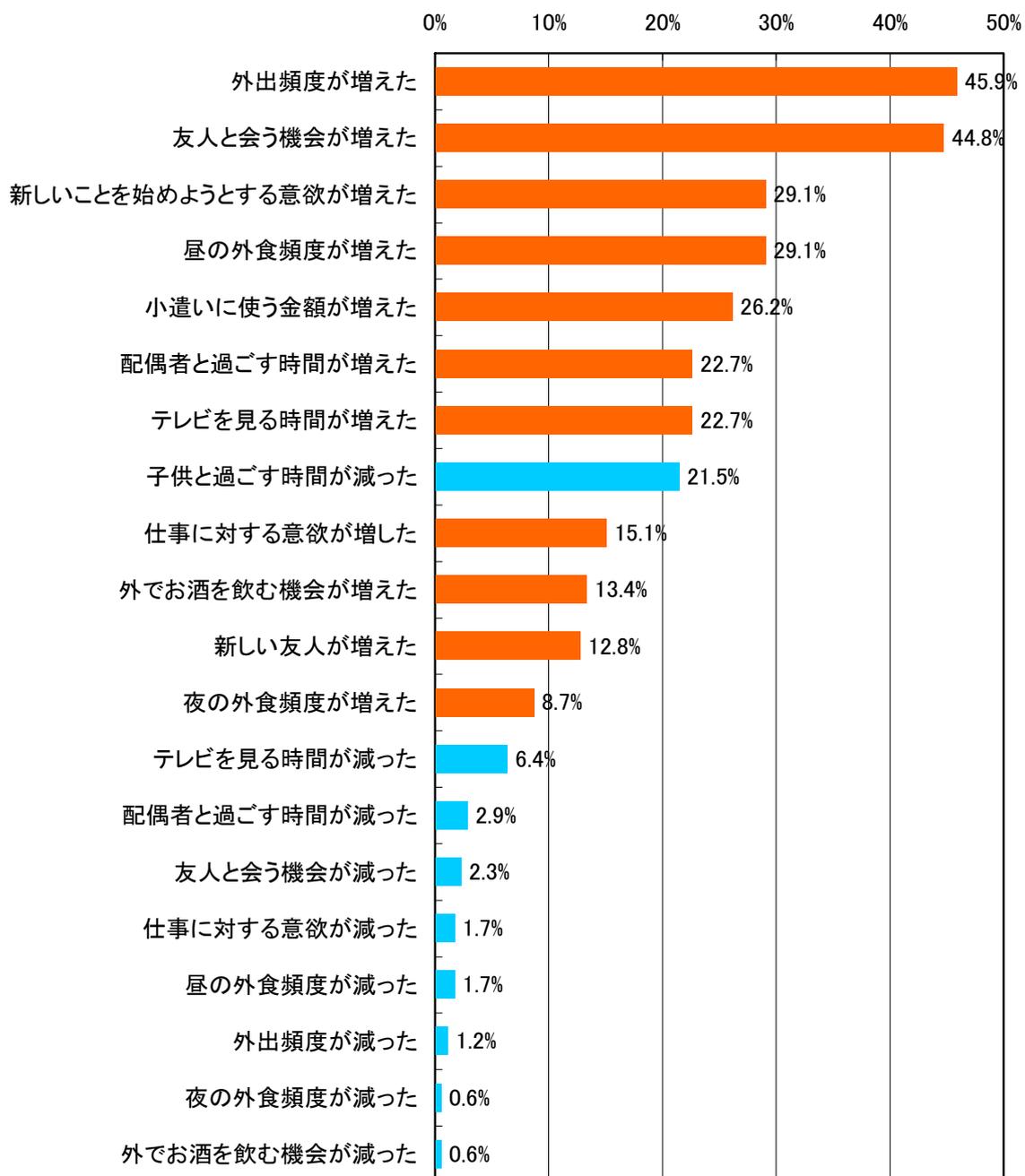
家計の足しにしたいと思って	満足	46.5%
	不満	11.6%
空いた時間を有効に使いたいと思って	満足	44.2%
	不満	11.6%
小遣いを増やしたいと思って	満足	23.3%
	不満	16.3%

□習い事を始めた層(48名)

自分自身の時間を楽しみたいと思って	満足	75.0%
	不満	4.2%
ストレス解消したいと思って	満足	47.9%
	不満	4.2%
空いた時間を有効に使いたいと思って	満足	35.4%
	不満	10.4%

- 「増える」ものが多く、「減る」ものは少ない。
- 子供による個人行動の制約解消というタイミングには、主婦の様々な行動に対するモチベーションが強化されやすい。
- 友人を中心に外出頻度は増えるが、その性格は「酒」「夜」ではなく、「昼」の傾向が強い。
- テレビを見る時間も、「減った」より「増えた」が多い。自らの時間を楽しむ意識は、外出先だけでなく、自宅でも強い。場所は重要ではなく、自らが楽しめる気分を重視する姿勢を確認できる。

■子供による個人行動制約の解消後の生活変化



子供による個人行動制約のピークは2回訪れる

- 事実① 50～59歳の主婦は、35～44歳的主婦に比べて、制約を受けた経験率が高い
- 事実② 35～44歳的主婦の大半は、末子が小学生のうちに制約が解消されたとしている
- 事実③ 50～59歳的主婦の大半は、末子が中学～学生のときに制約が解消されたとしている



子供を持つ母親の大多数が、子供による個人行動の制約を受けた経験を持つ。現在はその制約が解消されている主婦の経験を分析すると、興味深い事実を推察できる。35～44歳の多数は、制約は末子が小学生のうちに解消されたとしている。一方で、50～59歳の多数は、制約は末子が中学生～学生で解消されたとしている。時代による社会環境の違いもあろうが、意識には明らかな差がある。若い主婦は、ひとつ目のヤマを超えたに過ぎず、今後、末子が中学生～学生に成長する段階で、再度制約を受ける可能性が高い。この先、2つ目のヤマを迎えた場合には、現在の生活パターンを継続できなくなる恐れが生じる。末子が小学生以下の主婦をターゲットにするビジネスでは、止めざるを得ない状況に備えたマーケティング施策を準備しておくことが奏功する。生活変化を顧客目線で事前に分析しておけば、それに合わせた適切なビジネス展開が可能となる。

子育て終了後、主婦は自分の時間を楽しむことを最優先する

- 事実① 制約解消後の変化として最も起こりやすいのは、友人との外出機会の増加である
- 事実② 仕事ならフルタイムではなく、パートタイムを選ぶ主婦が多い
- 事実③ 自分自身の時間を楽しむ意識が、外出や習い事が増える1番の理由である
- 事実④ 時間を楽しむ目的の満足は高いが、有効に使う目的の満足は低い



子供による個人行動の制約解消後に、最も多く表れる変化は「外出機会の増加」である。低年代層の主婦は「友人と」、高年代層の主婦は「夫婦で」の外出が多いのが特徴である。いずれの場合も、自らの時間を楽しむ意識が強く、他人本位ではなく、自分本位の行動である。家計に金銭的な余裕がない場合には、仕事を始めることもあるが、その大半はパートタイムであり、フルタイムではない。仕事に意義を見出すような強いこだわりがあるのではなく、仕方ないから仕事をするという性格のほうが強いようだ。子育て終了後の主婦をターゲットにしたビジネスでは、何をやるかではなく、楽しく過ごせるかの観点のほうが重要である。

また、自らの時間を楽しむ目的での満足度が7割以上であるのに対して、空いた時間を有効に使う目的での満足度は3～4割に留まっている。例えば、習い事は楽しいがその受講スケジュールの調整には苦勞する、などが想定できる。主婦を相手にしたビジネスでは、スケジュールの柔軟性は欠くことのできない要件である。

子育て終了後、主婦の行動に対するモチベーションは強化される

- 事実① 制約解消後の行動では、「増える」ものが圧倒的に多く、「減る」ものが圧倒的に少ない
- 事実② 自宅内の最たる行動であるテレビ視聴時間も、「減った」のではなく、「増えた」意識が強い
- 事実③ より増えた外出パターンは、「酒」「夜」ではなく、「昼」である



子供による個人行動の制約解消後における主婦の行動変化の特徴は、様々な行動が増えることであり、減ることではない。時間的もしくは金銭的な余裕が生じるため、当然の行動変化である。外出機会が増えるのはもとより、テレビ視聴時間や飲酒機会も増える。変化は必ずしも外向きではなく、内向きにも生じる。場所は重要要素ではなく、楽しめる気分が重要なのである。モチベーションが一気に強化されるこの時期は、主婦向けサービスの提供を目指すビジネスには絶好のタイミングである。楽しい気分を醸成する要素があれば、成功確率は高まる。外出は昼が主であり、夜やお酒を伴ったものは少ない。劇的な変化は求めておらず、昼に生じる自らの余暇時間を有効に使う意識が強い。自分本位とは言え、それは昼だけのことであり、家族に配慮する気持ちを疎かにするわけではない。

トピックスリサーチ

主婦の生活スタイルに関するマーケティングデータ

～子供による主婦の個人行動制約解消後の生活スタイル 篇～

発行日 2011年6月30日

発行・調査分析 朝日大学 マーケティング研究所
〒460-0002
愛知県名古屋市中区丸の内3-21-20
朝日丸の内ビル2F
TEL: 052-961-4576

お問い合わせ apost@dance.ocn.ne.jp